

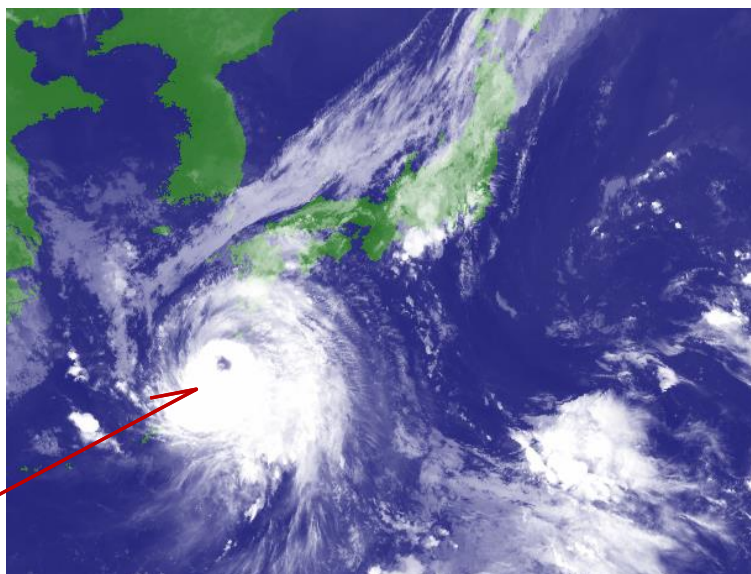
令和 6 年台風第10号について

静岡地方気象台

気象概況

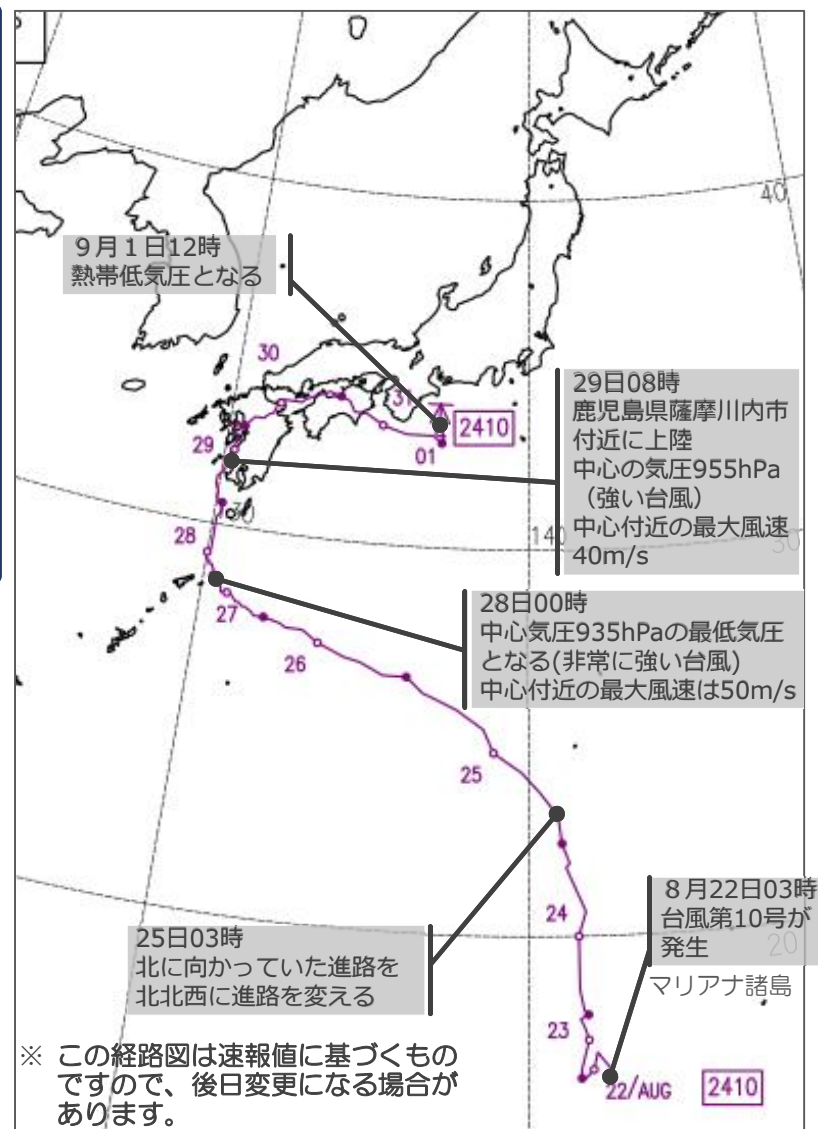
－ 台風第10号の経路及び発生・発達状況 －

- ✓ 台風第10号は、8月22日にマリアナ諸島で発生。
- ✓ 日本の南を8月24日にかけて発達しながら北へ進み、25日には北西へ進路を変えた。台風は日本付近で動きが遅くなり、27日に非常に強い勢力となって奄美大島に接近（左下図）した後、29日08時頃に鹿児島県薩摩川内市付近に上陸した。上陸後は、勢力を弱めながらゆっくりとした速度で九州や四国を通して東海道沖へ進んだ（右図）。
- ✓ 9月1日に熱帯低気圧に変わった後、ゆっくり北上しながら2日には不明瞭となった。



衛星赤外面像（8月28日00時00分）

※ 台風第10号が最盛期の衛星画像

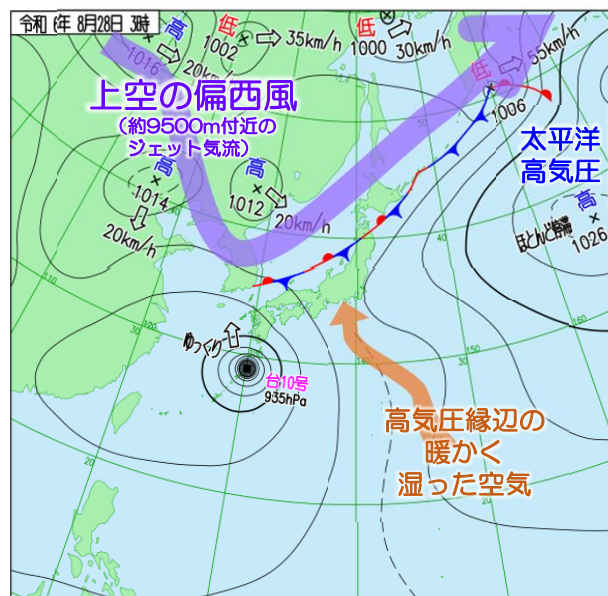


令和6年台風第10号の台風経路図

長期間にわたって雨が断続的に降った原因

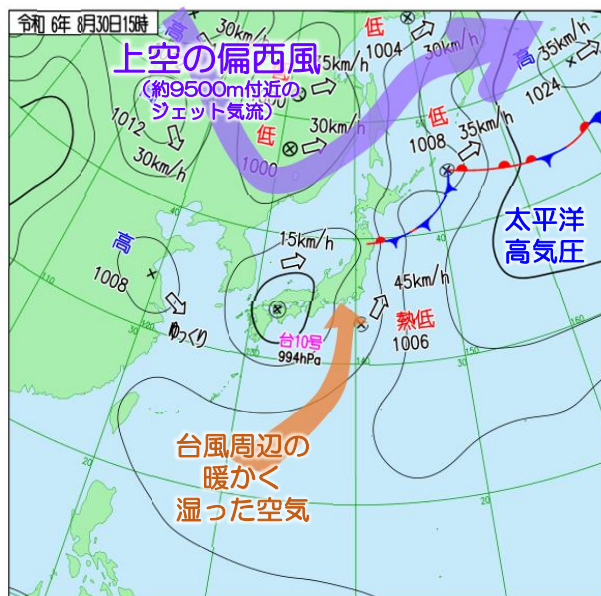
- ✓ 太平洋高気圧が日本の東に張り出したことにより、**静岡県付近が高気圧の縁にあたる状態が長期間続いた。**
- ✓ 台風が日本付近に到達しても**上空を流れる偏西風が中国東北区付近を流れていたため**、台風周辺の風が弱く、台風の動きが遅かったことからその影響が続いた。

⇒ 上記理由により、太平洋高気圧周辺または台風周辺の暖かく湿った空気が静岡県に流れ込み続けたことで、長期間にわたって雨が断続的に降った。



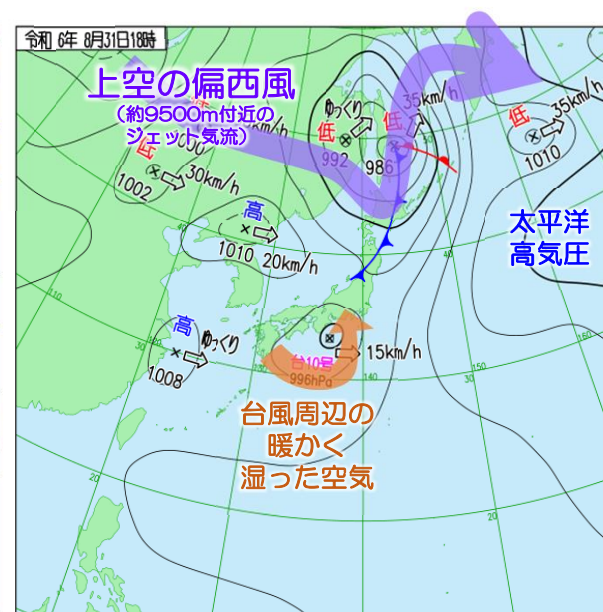
地上天気図（8月28日03時）

※ 27日及び28日は西部と中部を中心に大雨



地上天気図（8月30日15時）

※ 30日は伊豆と東部を中心に大雨

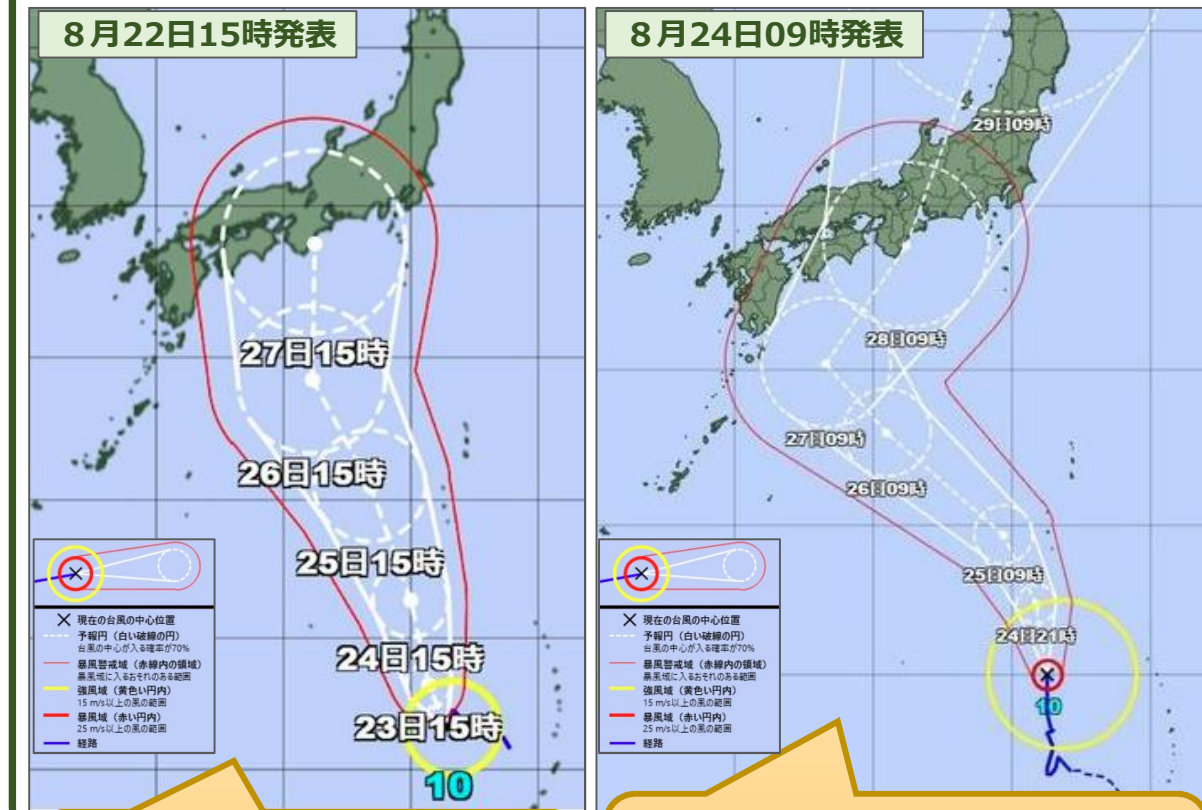


地上天気図（8月31日18時）

※ 31日は県内の広い範囲で大雨

台風第10号の進路予想と実際に進んだ進路

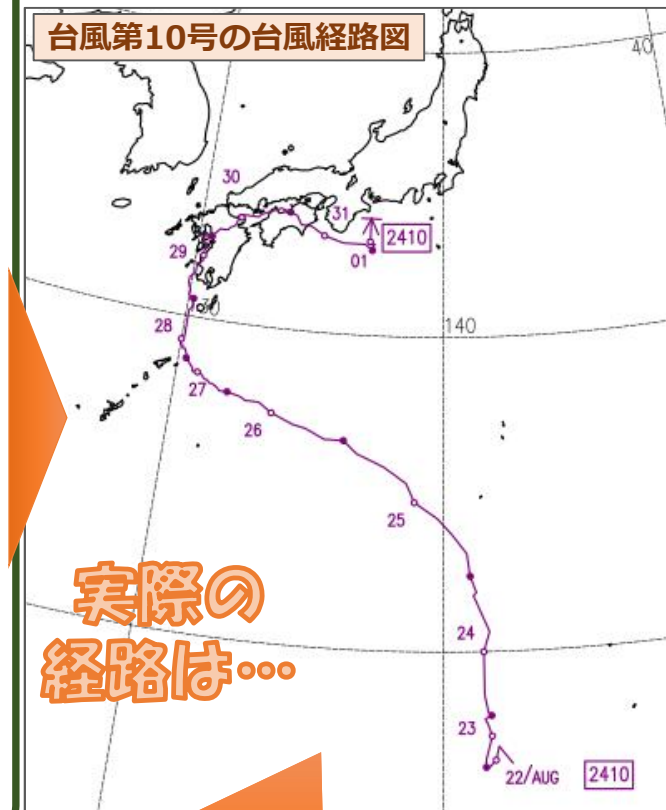
台風進路予想



22日15時の予報では、北北西に進み、27日頃本州付近に接近又は上陸の可能性があるとして予報

24日09時の予報では、25日頃に小笠原諸島の西で北北西から北西に進路を変え、28日頃本州付近に接近又は上陸する可能性があるとして予報

実際の台風の経路



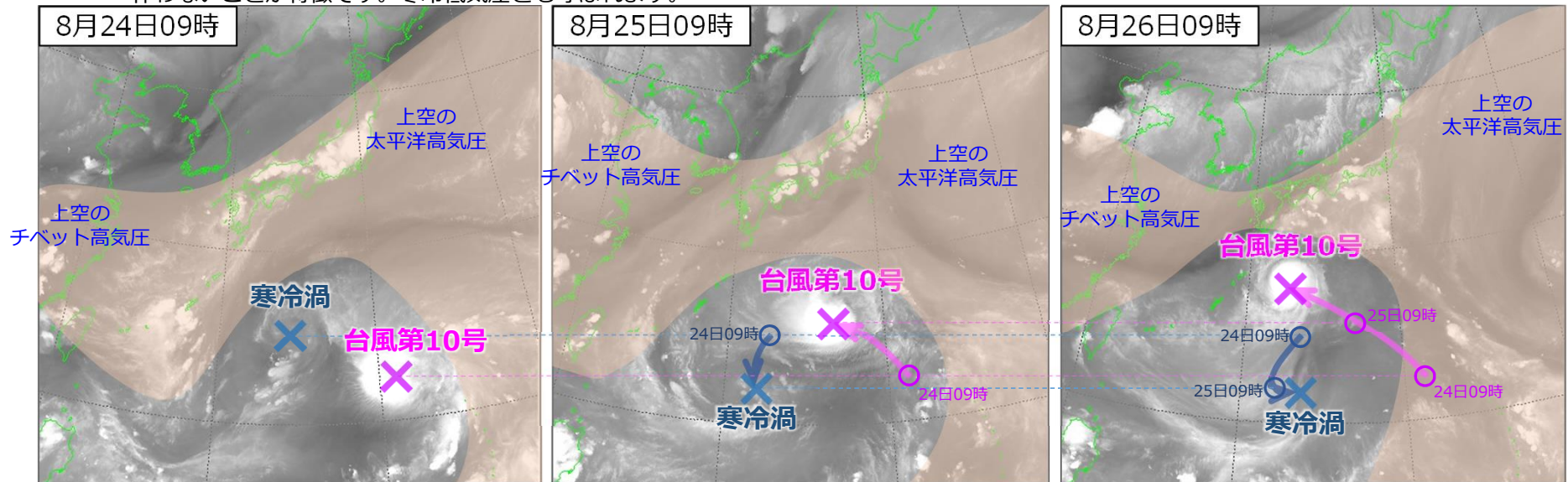
24日の予想 (予報円) よりさらに西側を通過して29日に九州に上陸。その後、9月1日に東海沖に進んだ

台風第10号はなぜ予想よりも西へと進路をとったのか？

台風が予想より西を進んだ要因

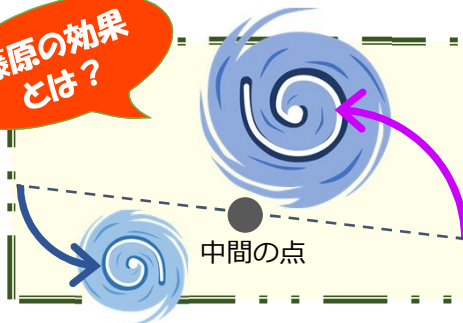
- ✓ 上空にあった**寒冷渦**※の影響により、**台風第10号と相対的に反時計回りに回転運動する「藤原の効果」と同様な効果が生じ**、台風第10号が特徴的な動きをしたと考えられる。
- ✓ この藤原の効果により、台風第10号は**当初の台風の進路予報よりも西側の進路を進んだ**と考えられる。

※ 寒冷渦とは、低気圧の一種で、特に対流圏の中層～上層（地上約5,000～10,000m）に発生します。寒冷渦の中心ほど気温が低く、前線を伴わないことが特徴です。寒冷低気圧とも呼ばれます。



気象衛星による水蒸気画像

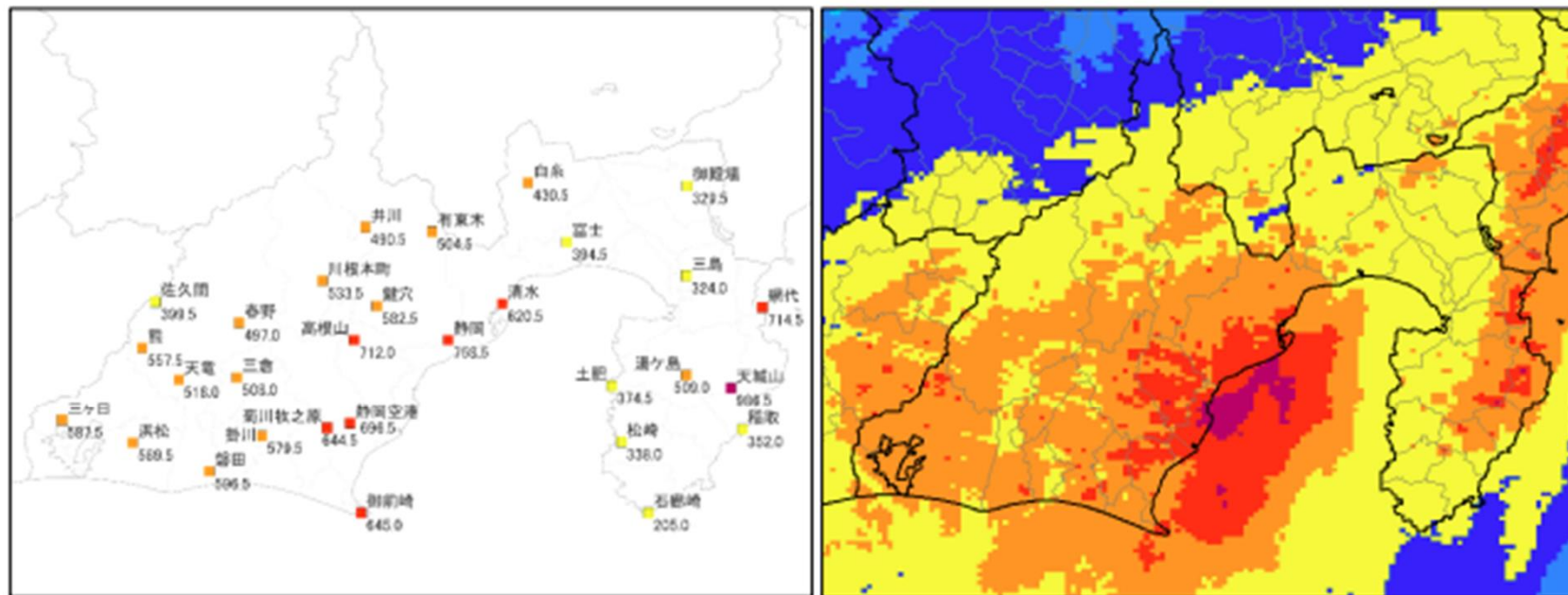
藤原の効果とは？



- 2つ以上の台風が接近して存在する場合に、台風がそれらの中間のある点のまわりで相対的に低気圧性の回転（反時計回りの回転）運動をすることを「藤原の効果」と呼んでいます。
- 寒冷渦などの低気圧性の循環をもつものでも藤原の効果が生じるとされています。
- 元中央気象台長の藤原咲平氏が、台風の相互作用について、紹介したのが始まりとされています。

県内の総降水量

- ✓ 静岡県では、8月26日から9月1日にかけて、**台風第10号及び太平洋高気圧の縁を回る暖かく湿った空気の影響を受けたため、長期間にわたって広い範囲で雨が降り続き、記録的な大雨となった。**
- ✓ 総降水量は、すべての地点で平年の8月の月降水量を超えました。



降水量 (mm)

アメダス総降水量の分布（8月26日～9月1日）

120 時間積算解析雨量
(8 月 27 日 0 時～8 月 31 日 24 時)

大雨をもたらした要因

- ✓ 太平洋の東日本以西の海域では**29℃以上の高温域**があり（左図）、平年と比べ0.5℃以上高くなっていた（右図）。
- ✓ 大雨をもたらす原因となった暖かく湿った空気は、**この高温の海域を**通って静岡県に流れ込んできたため（図中の赤枠）、**海面から大量の水蒸気の供給を受けた**と考えられる。

